

大井川鉄道の知られざる事実

20-3 K.K

現在でも多くの観光客でにぎわう大井川鉄道。
きかんしゃトーマス号やS Lかわね路号など、子どもから大人まで楽しめる観光列車が運行している。



その始発駅である新金谷駅。S L運行日には多くの観光客が利用するがその反面、大井川鉄道には一般の観光客には見せることが憚られる場所がある。その場所は

「大井川鉄道大代川側線」

その側線には予想もしない光景がひろがる。

現状



放置された鉄道車両(①、③)、蒸気機関車の部品(②、④)。一部の車両は塗装の剥離、錆が生じている。

まさに廃車体とも呼べる車両が留置されている。まるで解体場のようなのだ。

しかし、一部にはきれいに整備された車両や部品もある。

なぜこのような状態になってしまったのか。

理由

かつてこの側線は実際に廃車体置き場として利用されていた。大井川鉄道での活躍を終えた車両が運び込まれ、朽ち、放置されていた。しかし、近年その廃車体が解体され、現在では今後営業に復帰する予定がある車両(ナロ 80 系お座敷客車)、今後新たに導入される車両(元 J R 北海道所属 14 系急行型客車などが留置されている。

詳細

訪問時、留置線には元 J R 北海道所属の 14 系客車、ナロ 80 系お座敷客車、元南海電鉄 6000 系、C10 型蒸気機関車 8 号機が(解体)留置されていた。

14 系客車

大井川鉄道が 2016 年 6 月に SL 列車用客車の品質向上を図るとともに、現在保有する旧型客車にかかる負担を分散させ末永い SL 列車運行を行うことを目的として北海道新幹線の開業により廃止された青森～札幌間を運行していた夜行急行列車「はまなす」の 14 系客車 4 両を J R 北海道から購入した。2017 年 6 月運行開始を目指して整備されていた。2016 年秋には整備後の一般公開なども行われ営業運転開始間近と思われたが、整備が中断。その後 5 年間ほど放置されていて、傷みや退色の進んだ車両もある。



←傷みが進行している

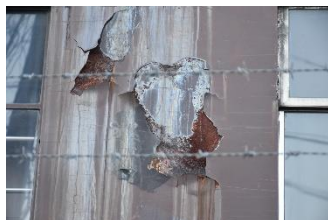


ナロ 80 系お座敷客車

大井川鉄道が西武鉄道から購入した電車を大改造し、車内に座敷を設けた客車である。ナロ 80 系は 2 両が大井川鉄道に所属しており、ナロ 80 1 は 1980 年 1 月から、ナロ 80 2 は 1985 (昭和 60) 年 12 月から主にイベント列車での運行を開始した。

元が電車であるため、乗り心地は「ナロ」の「ロ」に相当する 2 等車 (現在ではグリーン車) 級ではないという評判もある。主にスイテ 821 型展望車 (こちらも西武鉄道の電車から改造) と共に使用されていることが多い。

近年車体の傷みが目立ってきており、運行も激減しているようだ。



↑劣化が著しい

元南海 6000 系

大井川鉄道が南海電鉄から製造から 56 年が経過したステンレス車両を導入するという他に例がない譲渡を 2020 年 7 月に受けた。その車両が南海 6000 系である。大井川鉄道は大井川鉄道仕様の運行関連機器を搭載する程度の改造で既存の南海 21000 系の 1 編成を置き替えると発表した。2020 年度中に運行を開始すると発表した但未だに実行されず、側線に留置されている。その他部品も放置されている。しかし、他の車両に比べて傷みは少ない (ほぼない)。ステンレスカーのさびにくいという特徴が証明されている。



C10 型蒸気機関車 8 号機

大井川鉄道が動態保存をしている動態保存蒸気機関車の 1 両。1930 (昭和 5) 年に川崎車両で製造された。現存する唯一の C10 型蒸気機関車としてとても貴重な存在である。

1994 年 4 月 24 日に岩手県宮古市のラサ工業(株)より大井川鉄道に入線。1997 年 10 月 14 日に運行を開始した。当時この C10 型は定期検査の最中であった。そのためにすべての部品を解体してあった。その他にもサイドタンクやキャブ (運転室) などが新造され、その新造された部品も置いてあったことを確認できた。



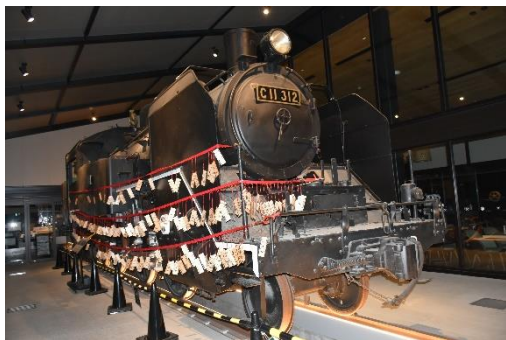
キャブ(運転室)



動輪

その他にも複数の部品が確認できた。

かつてこの側線には C11 型 312 号機という大井川鉄道で動態保存されていた蒸気機関車が主要部品の多くが外された廃車体に近い状態で保管されていた。残った部品はボイラーと動輪、煙突くらいで、その他の部品は全て他の動態保存機に供出してしまったのである。しかし、2021 年 1 月にオープンした道の駅 KADODE OOIGAWA に保存するために復元され、保存されている。廃車体の時代は想像がつかないほどきれいに整備された。



多くの世代に大人気の大井川鉄道新金谷駅だが、その裏では S L の復活運転とはかけ離れた世界がある。大井川鉄道の復活蒸気機関車を楽しむと同時に、大代川側線という珍しい側線を楽しむという方法も面白い。役目を終えた車両の現状をじっくりと観察することは他とは違った面白さがある。鉄道の新たな楽しみ方としてとても興味深いことだと感じる。

(私有地への立ち入りは厳禁です。ここで使用した写真は全て公道から撮影しました。)